

動物診療施設における人用抗菌剤の販売量について

調査の内容

調査期間：2016～2020年販売分

内容：動物診療施設に販売された人用抗菌剤の内容を聴取し、集計

項目：製剤名／規格・容量／販売数量（t）／施設の対象動物

調査の結果

1. 全体の販売量について

- 動物診療施設に販売された人用抗菌剤のうち、約9割が愛玩動物の診療施設向けでした。
- 愛玩動物の診療施設における抗菌剤の割合は、動物用が6割、人用が4割でした。

2. 抗菌剤について（人用、動物用のそれぞれに承認のある抗菌剤）（表1参照）

- 同じ系統に動物用抗菌剤があるにもかかわらず、人用抗菌剤の販売量が一定量あることが分かります。
- 動物への安全性・有効性が確認されている**動物用抗菌剤を優先的に使用**してください。

[表1]

		第1世代 セファロスポリン	ペニシリン系	フルオロキノロン 系	第3世代以降の セファロスポリン
動物用抗菌剤	販売量 (t)	3.72	1.54	0.88	0.21
	割合	71.3%	49.6%	88.8%	69.0%
人用抗菌剤	販売量 (t)	1.49	1.56	0.11	0.10
	割合	28.7%	50.4%	11.2%	31.0%
合計販売量 (t)		5.21	3.10	0.99	0.31

3. 人用にのみに承認がある抗菌剤について（表2参照）

- **人医療において最終手段とされているカルバペネム系等**の使用が確認されました。
- 今後、耐性菌が検出された場合には、**動物用に使用できなくなる可能性**があります。**原則、使用を控えてください。**

[表2]

		カルバペネム系	ペネム系	グリコペプチド系
人用抗菌剤	販売量 (kg)	8.3	85.5	0.6

引き続き、**抗菌剤の適正使用・慎重使用**に御協力をお願いします。

